

普及活動情勢報告（令和4年8月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

茶農家の現状把握、そして津野町茶業振興計画策定に向けて ～アンケート聞き取り調査・集計～



茶農家の声を聞き取る普及指導員ら

6月下旬から7月中旬にかけて、津野町、JA、当課の職員で、津野町茶業振興計画策定に係るアンケートを、茶農家23戸に実施しました。

アンケートは、茶農家の声をできる限り聞き取ることを意識して実施し、当課が集計しました。

茶農家の回答は、「5年後、茶園面積が縮小もしくは辞める」が73.9%、「津野町の茶産地を維持したい(して欲しい)」が65.9%など、現状が見える結果となりました。

当課は、今後、津野町が策定する茶業振興計画に具体的な提案等を行い、茶産地の維持に向けた、中切り、改植、条件整備などの活動を支援していきます。

想定外の災害発生。関係機関一丸となって被災農家を支援 ～台風4号の被害対応～



施設内に流入した土砂による被害を調査する普及指導員

7月5日未明に降った大雨の被害状況について、5～6日に、JA、役場、NOSAIと連携して、現地確認や生産者への聞き取り等を行いました。

須崎市、中土佐町の施設栽培のミョウガ、シシトウ、花き等で、作物、施設、附帯設備の被害を把握するとともに、生産者からの被害対策や再建に向けた相談等を受けました。2市町で30戸以上、200ha以上の浸水被害が出たことから、個々の施設、被害状況や保険加入の情報について、航空写真にプロットした「被災マップ」を作成しました。

これらにより、関係機関が連携した迅速な対応につながりました。当課は、今後も営農再開に向け支援していきます。

農作物の安全・安心のために ～津野山地域で環境点検を実施～



点検活動をする普及指導員

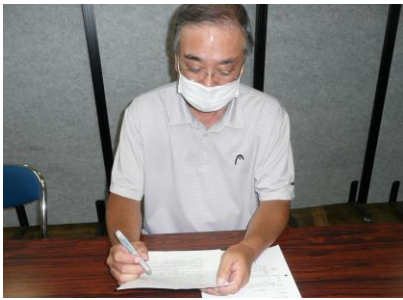
7月12～13日に、JA、梶原町、津野町及び当課の職員が、JA高知県津野山営農経済センター園芸部会員61人を個別訪問し、ほ場内・周辺の管理、農薬の保管状況、出荷調製場をGAP環境点検シートに沿って点検しました。

ほ場で、葉、果実が通路に散乱していないことや、出荷調整場での飲食の禁止など、ほぼ実施されていました。

点検したメンバーから、「農薬の保管をより安全にするために、チャック付きポリ袋を部会で買って配ったらどうか」等の意見がありました。

当課では、今後も個別巡回や部会等での啓発による徹底に努め、改善活動を支援していきます。

水稻の品質向上に向けて ～米コンクール出品を目指して～



水稻の栽培管理について説明する専門員

7月28日、おいしい米作りに取り組む「おおのみエコロジーファーマーズ」が第2回執行委員会を、中土佐町大野見で開催し、会員及び関係機関等7人が参加しました。

当課は、水稻の今後の施肥、水管理について説明を行い、特にいもち病の発生及び対策について注意喚起しました。

参加者から「水管理の重要性が分かった」などの意見が出ました。

今後は、10月の米コンクール出品を実現するために、今年度加入予定の2人を含む会員に対して、米作りの勉強を支援していきます。

商品化に向けて ～6次産業化支援チーム会～



作業を記録する普及指導員

7月29日及び8月5日、中土佐町大野見の「のらしごと舎」を対象に6次産業化支援チーム会を実施しました。

当課は、米加工品の試作作業の撮影を行い、製造工程ごとの動きや時間等を記録、整理し、工程表及び原価計算書の作成を支援しました。

対象事業者からは、「試作を重ねて製造効率を向上したい」「原材料や調理機器の改良などを検討したい」といった声が聞かれ、商品化に向けた今後の取組が共有できました。

今後は、6次産業化セミナーアップグレードコースなども活用しながら、試験販売に向けた取組を支援していきます。

栽培中期の栽培管理を徹底 ～土佐甘とう部会で現地講習会を開催～



栽培管理のポイントを説明する普及指導員

8月9日、梶原町田野々のほ場でJA高知県津野山営農経済センター土佐甘とう部会が現地検討会を開催し、生産者11戸が参加しました。

当課は、ほ場で整枝の仕方を実演し、尻腐れ果、病虫害対策などについても説明し、今後の栽培管理の要点を指導しました。

生産者からは「下枝の整枝方法をもっと知りたい」「アブラムシ類によく効く薬剤はないか」といった質問がありました。

当課は、今後も現地巡回や部会活動を通して、今年度中盤以降の収量・品質向上に向けた指導を継続します。